隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

パリ2024オリンピックの戦績

7月26日から8月11日の間に開催されたパリ2024オリンピックが幕を閉じ、レスリングの高谷大地1等陸尉、柔道の新添左季2等陸尉、近代五種の佐藤大宗2等海曹はそれぞれ銀メダルを手にする活躍を見せました。

高谷大地1等陸尉　銀

レスリングでは、高谷大地1等陸尉がフリースタイル74kg級で銀メダルを獲得し、その実力を遺憾なく発揮しました。

予選ラウンドから決勝に至るまで、高谷1尉はその冷静な判断力と圧倒的な技術で観客を魅了しました。

決勝ではウズベキスタンのラザンベク・サラムベコビッチ・ジャマロフと対戦しましたが、結果は僅差での敗北。

しかしその健闘ぶりは日本のみならず、国際社会からも高く評価されました。

新添左季2等陸尉　銀

柔道では、新添左季2等陸尉が混合団体戦で銀メダルを獲得しました。

新添2尉は、個人戦で惜しくもメダルに届かなかったものの、団体戦ではその実力を存分に発揮しました。特にセルビア戦やドイツ戦では、冷静な技の組み立てと力強い投げ技で勝利を収め、日本チームを銀メダルへと導きました。

佐藤大宗2等海曹　銀

近代五種では、佐藤大宗2等海曹が銀メダルを獲得し、日本人として初めての快挙を成し遂げました。

佐藤2曹は、フェンシング、馬術、水泳、射撃、ランニングといった多岐にわたる競技で、その多才さと忍耐力を発揮しました。

特に最終競技のレーザーランでは、驚異的な逆転劇を演じ、観客を沸かせました。

石黒隼士2等陸曹

石黒隼士2等陸曹はレスリングフリースタイル86kg級に出場し、初戦において11−0で勝利しました。

準々決勝ではアメリカの選手に11−1で敗れ、敗者復活戦への進出を期待しましたが、相手選手が準決勝で敗退したため進出できませんでした。

蝦名愛梨2等陸曹

蝦名愛梨2等陸曹は、オープンウォータースイミング女子10kmに出場しました。自衛隊から同競技に出場するのは初めてで、セーヌ川に設けられたコースを6周しました。

蝦名2曹は序盤は17位でスタートしましたが、徐々に順位を上げ、一時は3位まで浮上しました。しかし、最終的に13位でゴールし、記録は2時間6分17秒7でした。

内田美咲3等陸曹

内田美咲3等陸曹は近代五種女子部門で健闘し、準決勝でグループ12位を記録しました。

彼女の挑戦は、日本の近代五種競技の未来に対する期待をさらに高める結果となり、今後の発展がますます期待されます。

梶木真凜3等陸曹

梶木真凜3等陸曹が所属する日本女子7人制ラグビーチームは、パリ五輪で予選リーグを1勝2敗で通過し、9位から12位を決める順位決定戦に進出しました。

南アフリカとの初戦では、梶木3曹の2連続トライで逆転し15−12で勝利。続く試合でブラジルを38−7で下し、9位となりました。

梶木3曹は東京五輪に続き今大会も全試合にフォワードとして出場し、チーム最多の5トライ25得点を挙げました。

終わりに

各選手の活躍により日本のスポーツ界における自衛隊の存在感がさらに高まり、今後の活躍にも一層の期待が寄せられています。

（編集局）

体育学校での馬術訓練（防衛省X）

山口県

県内自衛隊基地と家族支援協定を締結
新協定で隊員家族への支援体制強化

7月19日、山口市において山口県海上自衛隊（岩国航空基地、小月教育航空群、下関基地隊）、山口県自衛隊家族会、山口県隊友会の5団体による「隊員家族支援に対する協力に関する協定」締結式が開催されました。

5団体による支援協力締結

この式典では、5団体の代表者が一堂に会し、協定書に署名を行いました。

また、岩国航空基地、小月教育航空群、下関基地隊を代表する各自衛隊の幹部と、山口県自衛隊家族会、山口県隊友会の代表がそれぞれの立場から、この協定の意義と今後の展望について語りました。

山口県自衛隊家族会の和田会長は「この協定締結を通じて、隊員が後顧の憂い無く勤務に励めるよう家族支援の充実に一層力を注ぐとともに、各種訓練やイベントを通じて、家族同士の交流を深め、地域社会との連携を強化していく」ことの必要性を示しました。今回の協定締結により、山口県自衛隊家族会は県内に存在する陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊の全ての基地と正式に協定を結んだことになり、山口県内の自衛隊員とその家族に対する支援体制は大きく前進しました。

これからも地域と自衛隊が協力し合い、国民が安心して生活できる環境が作り上げられることが期待されます。

（山口県自衛隊家族会　会長　和田　和年）

栃木県

第22次派遣支援隊、宇都宮駐屯地を出発
家族に見送られ、6カ月間の任務へ

お父さんを涙で見送る弟

7月22日、陸自宇都宮駐屯地で「第22次派遣海賊対処行動支援隊（警衛隊）」の見送り行事が行われ、栃木県自衛隊家族会の古橋会長が参加しました。

見送りに先立ち、隊員たちは堀口中即連隊長の配慮で、警衛隊長および先任上級曹長と懇談の機会を得ました。

猛暑日の中、現地ジブチの厳しい気候が話題となり、50℃に達する気温でも湿度が低いため、日本よりは過ごしやすいと説明されました。古橋会長は、6カ月にわたる過酷な任務に備え、健康を願う激励の言葉を贈りました。

その後、連隊朝礼場で出国行事が執り行われ、連隊長はオリンピックに例え、「日の丸を背負う誇りを胸に、任務を全うせよ」と訓示。整列した隊員たちは、誇り高く任務への決意を新たにしました。

見送りの列が駐屯地内に続く中、隊員たちは家族や仲間に見送られながら元気に出発。

中でも母子3人の家族の姿が特に印象的でした。お兄ちゃんが「お父さん、行ってらっしゃい」と敬礼し、弟が涙ながらに手を振る光景に、多くの参加者が胸を打たれました。

その後、隊員たちは成田空港へ移動し、夜には出国。6カ月の任務に向け、旅立ちました。

（栃木県自衛隊家族会　会長　古橋　一男）

植田（大分県）

自衛隊広報活動に家族会が協力
火群れまつりで募集活動を支援

幟を立て支援する家族会会員

全国的に厳しい募集状況が続く中、大分市植田地区会は7月28日に、大分地方協力本部大分募集案内所（所長・松本健1等陸尉）が実施する広報行事に協力しました。

この広報活動は、毎年大分市植田で開催される「火群れまつり」に合わせて初めて行われたものです。

家族会員は制服を着た広報官と共に参加し、地域住民に親近感を与えました。対象となる年齢層の方は少なかったものの、多くの子供連れの方々が訪れ、配布物を興味深く受け取ったり、アンケートに協力する姿が見られました。

活動中には「災害派遣ご苦労さまです」や「自衛官に興味があります」などの声も寄せられ、地域の関心の高さがうかがえました。

参加した家族会員らは、今回の活動を通じて募集広報に貢献できたことに加え、家族会の活動を広める良い機会となったと感じています。

今後も同様の広報活動に協力し、少しでも受験者や入隊者の増加につながることを期待しています。

（植田地区　会長　大城　伸吉）

奈良県

第48回定期総会開催、奈良市で開催
参加機会拡大と交流深化の取り組み

最新の話題を交えた有意義な講演

6月29日、奈良市内において奈良県自衛隊家族会の第48回定期総会が開催され、39人の会員が参加しました。

平成29年の規約改正により、総会構成を代議員制から会員制に変更し、また、今年は初めて土曜日に開催することで、参加機会を拡大しました。

総会では、自衛隊に対する理解を深め、会員間の交流を促進するため、指揮官による講演や意見交換会も例年通り行われました。議事において会勢状況把握に関する規約改正や新理事の選任など、今後の運営に必要な議案が議決されました。

その後、空自幹部候補生学校長兼奈良基地司令の岡本秀史空将補による「わが国を取り巻く安全保障環境と航空自衛隊の方向性」と題した講演が行われました。最新の話題を交えた講演は、参加者にとって有意義な時間となりました。

また、奈良県防衛協会の前田武会長をはじめ、協力団体や近隣各部隊の代表者が一堂に会した意見交換会も行われ、貴重な交流深化の機会として盛会のうちに終了しました。

地域募集事務所の紹介も各所長から行われ、会員に身近な内容が提供されたことで、参加者数は微増ながら増加傾向にあります。今後も、会員にとって魅力的な総会内容の策定に努めていく考えです。

（奈良県自衛隊家族会　事務局長　吉川　和博）

横浜（神奈川県）

横浜中央地区会定期総会の開催を支援
案内所、自衛隊家族会と連携強化へ

6月23日、神奈川県自衛隊家族会横浜中央地区会の定期総会が開催され、神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長・狩野圭2等陸尉）がその支援を行いました。

横浜中央地区会は、自衛隊員の家族同士が親睦を深めることを目的に活動する組織であり、総会では前年度の主要事業の成果報告や今年度の活動方針が発表されました。

総会全景

また、令和5年度の活動として、自衛隊募集活動への参加協力や艦艇出国・帰国行事、防衛講演会への参加の呼びかけが行われ、自衛隊の魅力発信に貢献したことが報告されました。

令和6年度の活動方針としては、内部体制の充実や神奈川県自衛隊家族会との連携強化が示され、会の発展に向けた取り組みが強調されました。

横浜中央募集案内所は「家族会の皆さんには毎年大変お世話になっており、ご理解・ご協力に深く感謝している。今後も連携を密にし、より良い募集環境の構築に尽力する」と述べ、感謝と今後の協力強化への意欲を表明しました。

福井県

自衛隊音楽隊　県内各地でコンサート開催
家族会は隊員激励と来場者とのふれあい活動

グッズ販売で応援・八杉会長（左から2人目）と役員

当会は6月に福井市で、7月に越前市で開催された自衛隊コンサートに併せて、地元支部・地区会と共に激励活動を行いました。

6月22日、福井市のハーモニーホールふくいで、福井地方協力本部創立70周年記念の「ふれあいコンサート.inふくい」が開催されました。出演は、陸自第10音楽隊（隊長・山田牧人1等陸尉）です。この音楽隊は、令和6年2月にも鯖江市でコンサートを行い、県民に親しまれています。

今回のコンサートは記念事業ということで、通常1日1回の公演が2回行われ、総入場者数は2300人に達しました。

家族会からは、2回の公演に合わせて140人の会員が駆け付け、熱い声援を送りました。来場者は、第10音楽隊の華麗な演奏に魅了されたほか、福井地本の特別企画「自衛官の1日」を紹介するらっぱ吹奏のコーナーなど、ユニークな企画も楽しみました。

家族会は、自衛隊グッズ販売ブースを設け、小さなお子さんに人気の品々を販売し、来場者との交流を深めました。

7月6日、越前市文化センターで「スペシャルコンサートin越前」が地元事業団の主催で開催されました。出演は陸自中部方面音楽隊（隊長・伊東札記2等陸佐）です。越前市での自衛隊コンサートは珍しく、市民の関心も高かったため、1000人の観客で会場はほぼ満席となりました。

第1部ではクラシック、第2部では楽器紹介やアニメソングが披露され、照明効果と相まって活気あふれる演奏会となりました。最後は陸・海・空の自衛隊行進曲で締めくくられ、さすが自衛隊音楽隊の迫力ある演奏を感じさせました。家族会は公演に先立ち、見谷副会長、津田越前地区会長をはじめとする役員が伊東隊長を表敬訪問し、来県への感謝と今後の活躍を祈念して激励しました。

（福井県自衛隊家族会　事務局長　大刀　一朗）

元気にしています。

陸上自衛隊
常に全力で日々努力します。同期と元気に楽しくやってるよ、早く一人前になる！

海上自衛隊
信頼できる仲間と日々訓練に励んでいます。周囲への感謝を忘れず、日々訓練に励みます。同期と助け合いながら頑張ります。

航空自衛隊
南極に行く夢を追いかけて頑張ります。両親のような立派な自衛官になりたいです。規則正しい生活に慣れたかも。意外に自分に合ってる。毎日が忙しいですが、やりがいがあります。日々の訓練で、確実に自分が成長していると感じます。

航空自衛隊
人として、自衛官として成長しています！泰然自若、強い自衛官を目指し頑張ります。良き仲間と精進し濃い毎日を送っています。同期と一緒に訓練ができて楽しいです！常に家族を思い、同期と頑張っています。

教育隊学生からのメッセージ
おやばとでは今年も陸・海・空自衛隊の教育機関に入校中の学生の声を集めました。新しい環境で同期と訓練に取り組む前向きなメッセージが届きました。家族を思う気持ちにも心打たれます。

難波　勇多	千葉県大網白里市	荒川　久遠	福岡県宮若市
福士　千夏	青森県黒石市	寺澤　弦輝	広島県広島市
石丸　和佳	埼玉県さいたま市	鵜口　苺音	愛知県岡崎市
星野　綾奈	愛知県西尾市	石川　晴南	宮城県東松島市
大野　涼香	大阪府堺市	小川　健太	埼玉県鶴ヶ島市
川西　優輝	岡山県玉野市		
西山　蒼空	神奈川県綾瀬市		
上玉井　颯	広島県広島市		
今西　哲平	新潟県新潟市		
南野小日奈	大阪府大阪市		

大分県

護衛艦「あきづき」特別広報を実施
大分県家族会が出迎え、激励、応援

護衛艦「あきづき」出迎え行事

7月23日、大分県自衛隊家族会（廣崎千都志会長）は、別府地区隊友会および別府市自衛艦入港歓迎協議会とともに、別府国際観光港に入港した護衛艦「あきづき（艦長・小松大祐2等海佐）」を出迎えました。

小松艦長は前神奈川県家族会会長のご子息であり、県出身の乗員へも応援の気持ちを伝えました。

また、艦内と搭載ヘリコプターの特別広報を受け、自衛艦に関する知識を深める機会を得ることができ、今後の家族会活動に役立てたいと思います。

現在、厳しい募集環境が続く中で広報活動は佳境に入っており、今回の訪問では金曜日ではないにもかかわらず対象者にカレーの体験昼食が提供されました。

一般公開は24日のみでしたが、約1600人が訪れ、関心の高さがうかがえました。今回の広報活動が入隊希望者の増加と、海上自衛隊に対する理解の促進につながることが期待されます。

なお、今回のヘリコプター乗員は、4月に事故で殉職された大村基地所属隊員の同僚であり、亡くなられた方のご冥福と今後の安全飛行を祈念しました。

（大分県自衛隊家族会　事務局長　大城　伸吉）

護衛艦「あきづき」入港記念撮影

入間（埼玉県）

基地納涼祭での家族会の支援活動
地本の広報活動を見える形でサポート

来場者への募集者アンケートの手助け

7月24日、航空自衛隊入間基地（基地司令・佐藤網夫空将補）で恒例の基地納涼祭が開催されました。入間市自衛隊家族会の有志4人は、会場内の埼玉地方協力本部の広報ブースでお手伝いしました。

当日は昼過ぎに激しい雷雨がありましたが、夕方には天候が回復し、開門と同時に多くの家族連れが入場しました。会場では、入間修武太鼓や松本アルプス太鼓などの自衛太鼓の競演や、協力団体と基地隊員が参加する盆踊りが行われ、にぎわいを見せました。

自衛隊家族会の会員たちは、広報ブース前を通る家族連れに気さくに声をかけたり、募集対象者と思われる人々を優しくブースへ誘導して、募集広報をサポートしました。また、納涼祭の最後に行われた打ち上げ花火では、準備された観覧席エリアに移動し、入隊希望者（募集説明会応募者）たちの花火観覧を手助けしました。

観覧席で一緒に花火観覧

入間市自衛隊家族会の女性会員の一人は「自衛隊を応援するために、見える形で手助けができるのはうれしいです。今日はとても楽しかった」と語りました。

最後には、入隊希望者と共に夜空に咲く大輪の花火を楽しみ、納涼祭は感動的なフィナーレを迎えました。

（埼玉県自衛隊家族会　会員　小澤　和仁）

編集後記

▽9月号は、令和6年防衛白書、パリ2024オリンピックでの自衛隊体育学校選手の活躍などを伝えています。▽パリオリンピックでの選手の活躍については、1面、8面に記述しています。選手たちの活躍を振り返っていただきたいと思います。▽3面の防衛白書では、わが国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しているとしています。これに対処するために同志国との連携強化にも触れています。▽3面の国内外情勢。地味なコーナーで、記事の取捨選択に迷いますが、内外の出来事の因果関係について記述していると認識しています。「もしトラ」「もしハリ」、そして岸田首相の総裁選への不出馬。結果なのか萌芽なのか今後の展開について思いは巡ります。▽この秋、新指導者たちを迎えて日米関係は新たな展開を迎えそうです。